

## ロジスティクス源流管理マニュアルの活用方法

本マニュアルは、企業の物流関係者に求められる環境対応について、2部構成で解説している。第1部「組織の対応」では、企業として取り組む職場環境の整備、人材育成、全社活動等について基本的な考え方を示す。第2部「環境負荷低減方策」では、物流現場での具体的な施策についてそのコンセプトと手順を詳述する。その際、物流業務を次の3分野から捉え、それぞれについて「CHECK PLAN DO CHECK」の概念で記載している。

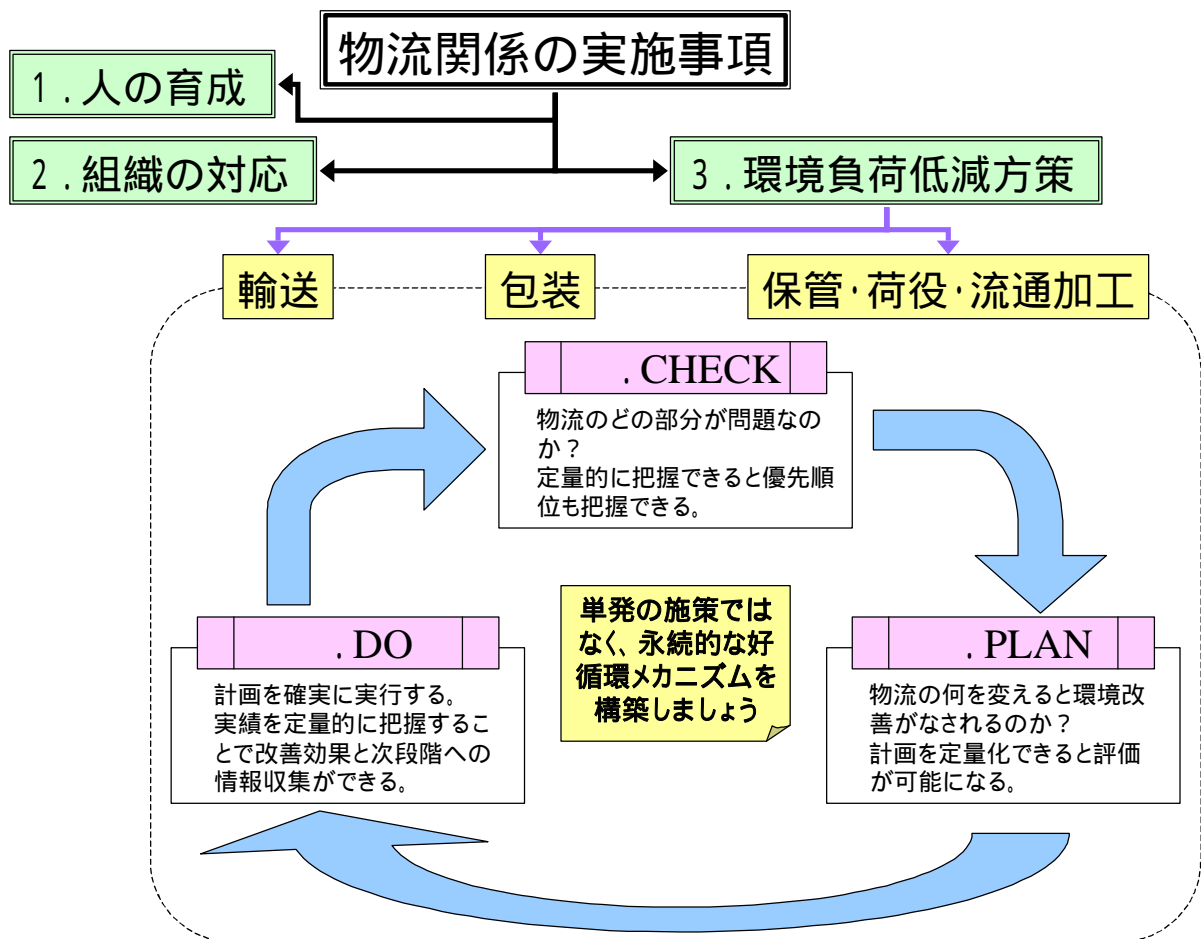
輸送

包装

保管・荷役・流通加工

「CHECK PLAN DO CHECK」の好循環メカニズムに持ち込むためには、「DO」の時に次ステップのための実績把握を行うことが重要である。

図表 本マニュアルの構成



## 本マニュアルの背景と狙い

### 1. 本マニュアルの背景と目的

本マニュアルでは京都議定書で地球規模での取り組みが求められている二酸化炭素削減と、近年ゴミ問題の重要性が高まる中での廃棄物削減に焦点をあて、荷主や物流事業者が現状の物流を見直す際のマニュアルを構築することを目的としている。

### 2. 本マニュアルの利用主体

本マニュアルの利用主体は、企業の物流ロジスティクス部門及び委託先物流企業である。ただし、具体的な施策については、企業全体（営業や生産、調達等を含めた全体）やSCM上の他主体も含めた全体を意識して記載している。

本マニュアルは、実務ベースで有用性を念頭においており、荷主の物流担当者や物流事業者が活用することを想定している。しかし、実際は荷主の物流担当者や物流事業者の努力だけで対応可能な施策もあれば、営業や生産、調達等を含めた荷主の他の部門やSCM上の他主体も含めた全体で実施すべき施策もある。そこで、本委員会では荷主の物流担当者や物流事業者が実施すべき「ステップ」と、荷主の他の部門やSCM上の他主体も含めた全体で実施すべき「ステップ」について検討を試みる。この平成16年度版では「ステップ」について重点的に取り組んでいる。